

国際コンファレンス実施報告書

1. 会議名：
東アジアの大学における教員養成のプログラム設計と質保証制度の現状と展望に関する国際共同研究コンファレンス
International Research Conference for International Collaborative Research Project on Comparative Study on Current Conditions and Perspective of Program Designs and Quality Assurance System for University-based Teacher Education in East Asia
(略称：東アジア教員養成質保証国際共同研究コンファレンス)
2. 日時：2012年2月14日（火） 9：00～18：00
3. 会場：ガーデンシティ品川 SHINAGAWA GOOS 1階
4. 参加者 総計 43名
【正規参加者】
<海外>
東北師範大学・華東師範大学・南京師範大学・台湾師範大学・公州大学校＝12名
<国内>
北海道教育大学・愛知教育大学・大阪教育大学・福岡教育大学・東京学芸大学＝12名
【オブザーバー】
オブザーバー参加者 9名 大学院生 10名
5. セッション2、セッション3の議題
 - ①国際共同研究各RGメンバーの選出・確定（資料3参照）
 - ②国際共同研究各RGの進め方について

【注1】 3つのRG（リサーチグループ）とは次のものである。

RG1：初等・中等学校の一般教員を養成するためのプログラム設計と質保証制度に関する研究グループ

RG2：校長や指導主事等、教育指導職を養成するためのプログラム設計と質保証制度に関する研究グループ

RG3：一般教員や教育指導職の養成を大学において担当する教員養成者を養成するためのプログラム設計や質保証制度に関する研究グループ

【注2】 コーディネーターとは各RGのリーダーであり、世話人のことを指す。

コーディネーターは各RG1名であり、日本の大学から選出する。

コアメンバーとは各RGの大学ごとの中心メンバーであり、連絡役を指す。

6. セッション3の議論について ～各 RG の概要と基本方針～

RG1 の課題について（発言者＝岩田准教授）

コーディネーター：岩田康之准教授（東京学芸大学）

概要・基本方針

①発足時はコアメンバーを中心に進める。コアメンバーは現在 9 名。課題に応じて WG を作りながら進める。

②制度面ではなく、教育実践に関わる課題から取り組む。

《参考資料》 岩田当日配布資料スライド 3 枚

RG2 の課題について（発言者＝田中理事・副学長）

コーディネーター：大脇康弘教授（大阪教育大学）

概要・基本方針

RG2 はスクールリーダーを含めて校長の質保証の問題に取り組む。

日本では校長を養成する意識は強くない。その下のスクールリーダー（学校づくりの中核を担う教職員）を対象に夜間大学院・教職大学院において養成している。25 の教職大学院のカリキュラムはまったく異なるので、その情報交換だけでも意義がある。

東アジア 4 地域が抱えるスクールリーダーに関する諸問題について議論する。

（主な論点）

- 韓国の校長には資格があり、勤務評価・研究実績が点数化されている。
- 台湾の校長は韓国の制度に類似し、大陸は任命制である。
- 韓国は法制化のプロセスが明確であるが、きめ細かな法律の規定が校長の質保証に直結するとは限らない。

RG3 の課題について（発言者：田中理事・副学長）

コーディネーター：田中喜美理事・副学長（東京学芸大学）

概要・基本方針

東アジア 4 地域の教師養成に関わる教員は大学院の博士課程修了者であり、教員養成を直接対象とした方は比較的少ない。多くの方はそれぞれの学問分野であるか、教育学・教育心理学のアカデミックな研究者が大学の教員になって on the job training で教師教育の担当者となっていく。そうした姿が一般的ではないかと考えている。

いくつかの地域でティーチャーエド्यूケーターをとくに養成するコースができてきているという現状にある。基本的には特別なプログラムやコースはない。

（主な論点）

- 小中学校において実習生の指導を担っているメンターの質保証も議論しなければならない。

以上